－役員エッセイ－

大通公園を望む窓辺から

今でも映画に夢中

常任理事　山科　賢児

観たい映画はたくさんあるのに、診療後その気になれば最終上映時刻に間に合うのに、最近映画館へ足を運ぶのは年に４、５回であろうか。教養時代に年間100本近くの映画を観たり、今年のベストテンの何本を観たかとキネマ旬報２月下旬号の頁をめくりながら悦に入っていた頃が懐かしい。

映画に夢中になったのは中学以降である。当時平日の午後に民放のテレビでは5､60年代のハリウッド映画を中心に吹き替えで放映していた。放課後クラブ活動をさぼり、あらゆるジャンルの映画を観た。映画やテレビやラジオから伝わる「アメリカングラフィティ」への憧れは、後日のアメリカ留学への最大の動機となった。

映画への意識が決定的に変わったのは、1974年のヌーベルヴァーグの旗手フランソワ・トリュフォーとの出会いである。母が読んでいた「暮らしの手帖」の古谷綱正の映画時評を読み興味を覚え、挿入写真のジャクリーン・ビセットの美しさに引かれ「アメリカの夜」を観た。副題の「映画に愛をこめて」のようにまさに導入から最後までトリュフォーの魔術に魅了された。それ以来トリュフォーの新作の封切を待つ追っかけとなった。

1982年「ぴあ」主催のフィルムフェスティバルにトリュフォーが来日しながらも会いに行くのを躊躇したのは今でも後悔している。２年後の10月、留学先のアメリカでテレビのニュースを観ていると、画面は52歳のトリュフォーの訃報を伝えていた。その後パリを訪れるたびにモンマルトルにあるトリュフォーの墓を訪れている。墓地の入口の花屋で花束を買い求め、人影まばらな落ち着いた墓地を歩き、黒く輝く墓石の上に供えてくる。

最近はアジア映画が気に入っている。1931年甲子園で行われた全国中等学校優勝野球大会で準優勝した嘉義農林学校野球部を描いた台湾映画「KANO」を観て涙した。先日舞台となった嘉義市を訪れた。30度を越える炎天下を歩いていると、偶然にも嘉義公園の棒球場で試合が行われていた。バットに当たる硬球の乾いた音が静かな球場に響き、時折日差しが漏れる青空に向かって白球が飛ぶのをバックネット裏に座り眺めていると、目の前でKANOの選手たちが憧れの甲子園を目指して野球をしているような錯覚に襲われた。

小樽市民の民意

理事　阿久津　光之

小樽市では、近年24年間の長きにわたり５者連合（小樽商工会議所を頂点に自民・公明・民主・連合小樽）さらには市職員を巻き込んだ官民癒着の盤石な支持基盤により市長が決められてきた歴史がありましたが、平成27年の市長選挙にて現職市長が、無所属新人市長候補に15,000票もの大差をつけられ敗れるといった小樽市の選挙史上、前代未聞の選挙結果となりました。この布石として平成23年の市長選挙の際に５者連合・市職員での前市長のパーティー券事件が発覚し、政治資金規正法違反で小樽市職員130名が処分を受け、この事実を多くの市民が知ることとなり、憤りの民意が４年後の市長選の結果へとつながった訳です。

新市長になり１年が過ぎ、市政運営が不安定で頻回に北海道新聞には記事が掲載され、札幌などの知人からも心配の声が聞かれますが、小樽市が変貌していくには多少犠牲を払ってでも変革が必要な時かもしれません。

従来の市政と異なり公約通り小学生の医療費の無料化など、住民サービスを第一に優先させる市政に重きを置きながら運営している状況です。

議会は25名中24名が野党であり圧倒的に不利な状況で議会を運営するといった影響を受けて、市長としては政策内容での議論を期待しておりますが、思惑通りには行かず議会が空転することが多くなっております。

市長の思いも５者連合・市議会の思いも輝かしい街にすることで一致していますが方法論やビジョンが異なるために、一見混乱として捉えられる議会となっているのではないかとも思っております。

新市長の理念は「訪れる人を魅了し、暮らす人にやさしい、市民幸福度の高い街づくり」を念頭としていると話され、高齢化社会の小樽市が住みよい街に変貌されることを期待したいと一市民として思っているところであります。